

親子のキャンプ 体験レポート

〈1日目〉

『カッター体験』

湖上はひんやりとして、波も穏やか。親子2人で1本のかいを持つ。「いーち・に」の掛け声で、タイミング良くこぐ。ついていくのに親は必死。子どもも真剣。

『ようやく夕食』

お父さんが主役。火起こし、まき割り、飯ごう炊さん。煙に苦戦しつつも、普段見ない額に汗して働く姿。うちわであおいだり、まきを運んだり子どもも自然にお手伝い。おこげ付きのご飯に、個性あふれるカレー。笑顔がこぼれる。

『キャンプファイアー』

日が落ちて肌寒さを感じる。「燃えろよ、燃えろ」の歌の後、点火。掛け声に合わせて子どもたちの歓声。始めは恥ずかしそうだった親の方が楽しそう。

〈2日目〉

『自然観察ハイキング』

赤トンボの大群、初秋漂う覚満淵の木道を渡り、鳥居峠でお弁当。トンボ採りをし、子どもも楽しみながらよく歩く。

秋



上 親子ハイキング「落ち葉の道を進む」
左 キノコ狩り「こんなに大きいマイタケが採れました」

イベントスケッチ

右 冬のワカサギ釣り「釣り方を教えてもらえます。生きているワカサギの美しさに感激」



下 雪上ハイキング「スノーシューズを初体験」



冬

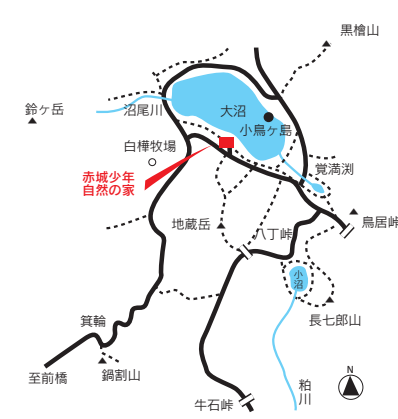


この夏、連日猛暑が続いた市内に比べると、赤城大沼付近は気温が10度近くも低く、絶好の避暑地です。市街地から車で走ること約1時間、シシウドの花が咲き、ウグイスの声が響く赤城少年自然の家に着く。ここは、小中学生の林間学校としてなじみが深く、カッターこぎをした思い出のある人も多いと思います。

大自然の中で 多彩なイベント

親子向けイベントを企画しています。秋のキノコ狩り、親子ハイキング、つる細工、冬のワカサギ釣り、雪上親子ハイキング。こうしたイベントに参加して山好きになる人も多いそうです。今年さらさらイベントが増える予定。

本市自然環境保全推進委員で赤城山の自然に詳しい篠原豊さんは、「赤城山には、いろいろな生き物がいる。シカ、クマ、キツネ、タヌキ、テン、ムササビ、イノシシ。動物だけではなく、野生の草花も目を驚かせてくれる。貴重な生き物が生息している自然豊かな赤城山をもっと知ってほしい」と話しています。



もうすぐ秋冬のレジャーシーズン。大沼湖畔にある教育施設・赤城少年自然の家ではキャンプ、キノコ狩り、ワカサギ釣りなど催しがいろいろあります。今回は赤城山の楽しみ方について同施設で話をお聞きし、実際にイベントに参加してみました。担当は市民編集委員大沢、石原。問い合わせは同家 ☎0287-822271。

触れ合いいっぱい赤城少年自然の家 新たな体験発見しませんか

イベントに参加し 仲間作りも

参加者の顔ぶれや目的はさまざまです。わたしたちは、毎日、仕事に追われる中、家族同士の付き合いや自然との触れ合いをする機会を作るのはなかなか難しいと思います。ここでのイベントに参加することで、家族同士が仲良くなります。イベントで出会う、次のイベントでまた会おうのを楽しみにしている人も多いようです。

民間のノウハウで サービス向上を

赤城少年自然の家は今年4月から指定管理者制度が導入され、施設の管理・運営者が民間企業に。スタッフも一新されました。丸山所長は、「教育施設としての責任を果たしながら、民間のノウハウを生かしサービスの向上を目指します。イベントを増やし、施設利用者を増やしていきたい」と話していました。

編集後記

赤城少年自然家のイベントは、講師やスタッフに指導を受けられるから初めてでも安心。主な道具は借りられるので準備が楽です。皆さんも親子一緒に参加して、自然や親子の触れ合いを深めてみませんか。